

アナログプレイヤーの比較試聴(14)

—モーツアルトを聴く(14)—

1. 始めに

前報(13)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種 of 試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルト of アナログ盤を使用していきますが、今回は協奏曲 of 曲です。

DENON OX-7022-ND

モーツアルト 協奏交響曲変ホ長調

コンチェルトーネハ長調

ジャン・フィランソワ・パイヤール指揮パイヤール管弦楽団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ZANDEN Model120 経由 of LINN LP-12 と Grrad401 では、Columbia、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

協奏交響曲は お馴染み of ヴァイオリンとヴィオラ of ダブルコンチェルトです。一方 of コンチェルトーネハ長調は二つのヴァイオリン、オーボエ、チェロ of コンチェルトです。

1974年 of ノートルダム・デュ・リバン教会での PCM 録音です。初期 of PCM 録音ですが、教会録音であり、パイヤール管弦楽団 of 演奏の音は PCM 録音特有 of 固さはそれほど目立ちません。

ThorenTD124 の再生では、協奏交響曲もコンチェルトーネハ長調も PCM 録音 of 音の固さは感じられず、快活で躍動的な再生です。特に協奏交響曲 of ヴィオラ of 音の雰囲気がよく出ています。

LINN LP-12 の再生では、協奏交響曲では、ヴァイオリンとヴィオラ of 掛け合いがありますが、ヴァイオリンとヴィオラもバック of オケの音も艶のある音を聴かせてくれます。コンチェルトーネハ長調では、オーボエ of 音も爽やかです。

Grrad401 の再生では、ThorenTD124 と LINN LP-12 の中間的な音です。

4. まとめ

3機種3様 of 再生パフォーマンスが確認できましたが、これまでになく PCM 録音 of 音の固さを感じさせません。

以上